

# 児童生徒の情報活用能力を育む映像制作

—伝える目的を意識した表現・発信手段としての映像制作活動—

映像教材研究会議

研究員 三宅 裕之 (川崎市立さくら小学校) 石橋純一郎 (川崎市立三田小学校)  
田中 靖浩 (川崎市立南河原中学校) 木原 貴史 (川崎市立西高津中学校)  
指導主事 栃木 達也

## I 主題設定の理由

### 1 映像制作の現状

センターでこれまで行われてきた先行研究で、授業における映像教材の活用については、児童生徒が新たな気づきや課題を見つけたり、学習の理解を深めたり、情報を多面的に読み取ったり、関心や意欲が高まったりと様々な効果が明らかにされている。映像教材を活用する活動とともに、児童生徒が自分たちの思いや伝えたいことを表現する一つの方法・手段として、映像を作る活動も授業の中で取り入れられている。

デジタルカメラやビデオカメラ、コンピュータ等各種の情報機器は安価になってきているため、普段の生活の中で子どもたちが身近にふれる存在となっている。子どもたちの所有が進んでいる携帯電話やスマートフォンでも写真や動画を簡単に撮ることができ、さらに撮影したものを送り合うことも容易になり、コミュニケーションツールとしてよく利用されている。しかし、自分の伝えたいことをよく吟味し、相手を意識して発信ができていくかという疑問が残る。

学校においても、低価格化や取り扱いの簡便化にともない、児童生徒が学習で活用できるようにと、デジタルカメラを複数台整備しているところも増えてきている。特に総合的な学習の時間では、探究的な学習のうち「情報の収集」の学習活動で、必要な情報として見学の様子を撮影したり、携わる人々の思いや苦労などをインタビューとして動画に収めたりしている。また、「まとめ・表現」の学習活動で、集めた写真から必要なものを選び、新聞やパンフレットを作ったり、プレゼンテーションソフトで発表したりしている。しかし、コンピュータで写真や動画を編集して制作された映像を発表の場で使用するといった活動となると、準備に時間を要することやスキルの問題からか、児童生徒にとっても教師にとっても敷居が高くなかなか扱われていないのが現状である。

動画を編集するソフトウェアも操作が簡単なものもあるが、技術的に難しいと感じられている傾向があり、どの教師も手軽に使えるという状況には至っていない。また学級で児童生徒が活用するには、機器の台数等、整備の問題も残る。

## 2 国の動向

情報教育及びICT活用の充実等については、学習指導要領の改訂において重視している事項との関係において、「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用できるようにすること

が重要である。」<sup>1</sup>とされている。

教科等の目標を達成するために児童生徒がICTを効果的に活用することについては、「教科等の学習で学んだことや、自分の伝えたいことを、他の児童生徒にわかりやすく発表したり、絵図や表、グラフなどを用いて効果的に表現したりするために、コンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用する。」<sup>2</sup>と、学習活動の具体的な場面について例示されている。

また、児童生徒につけさせたい情報活用能力のうち「情報活用の実践力」については、「課題や目的に応じた情報手段の適切な活用」、「必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造」、「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」の3つの要素からなり<sup>3</sup>、各教科等の目標達成と併せてそれぞれの能力を身に付けさせることが重要課題となっている。

### 3 主題設定について

情報活用能力を育む学習活動の中には多様なアプローチの方法がある。本研究会議では、「伝える力」（情報活用の実践力の3つの要素のうち、受け手の状況などを踏まえた発信・伝達できる能力）に焦点をあて、児童生徒にその能力を身に付けさせるための手段の1つとして、映像制作（動画で伝えること）を取り入れた授業での検証をもとに、映像制作の効果や有効性について探っていくこととした。

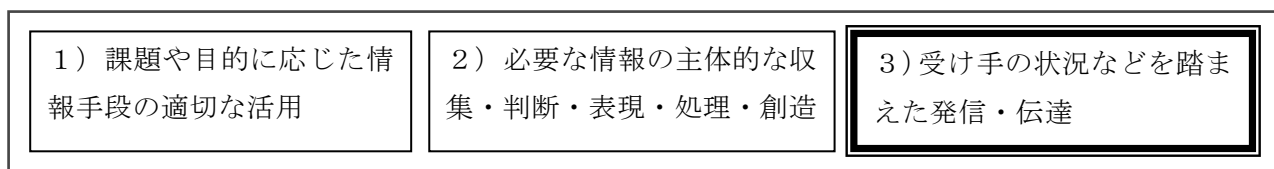


図1 情報活用の実践力3つの要素

自分たちの思いや伝えたいことを表現するツールは様々考えられる。中でも映像制作活動は、制作の途中で自分たちが撮影した映像を、「見てもらう人にとって分かりやすいものになっているか。」と客観的に受け手の立場になって見直すことができ、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成のための一つのツールとしての役割を果たすと考える。児童生徒が誰に何を伝えるかという目的をしっかりとって分かりやすく表現・発信ができるようになるためには、映像制作活動が有効であると考え本主題を設定した。

## II 研究の内容

### 1 研究の方法と流れ

教科等の目標を達成するため、表現・発信手段の一つとして映像制作の活動を取り入れることによる効果や児童生徒に身に付く能力について、第3学年総合的な学習の時間の単元を通じた授業で検証を行った。

### 2 参考映像の作成

研究会議のメンバーで、実際に近くの公園においてデジタルカメラで動画撮影を行い、簡単な編集をして、初めて撮影を行う児童の参考となるような映像を制作した。児童が動画撮影をする前にこの映像を見せることで、完成のイメージをもちやすくしようと試みた。編集には「Windows ライ

1 文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援 学校学習指導要領解説 総則編」2008年、2009年

2 文部科学省「教育の情報化に関する手引」2010年

3 文部科学省「教育の情報化に関する手引」2010年

ブムービーメーカー」<sup>4</sup>を使い、場面の並べ替えや、結合、簡単なタイトルテロップ挿入などの操作を行った。

### 3 検証授業

検証授業 小学校3年 総合的な学習の時間

「大すき三田のまち！ ～ 公園しようかいをしよう ～」

#### (1) 映像制作に関して

本単元は、学校行事で家族や地域の方々に地域の公園の良さを分かりやすく伝えることを目標としている。その発表の方法としてグループ単位で映像制作に取り組む。映像を使った発表のよさとして「発表を客観視できること」と「よりわかりやすい発表ができること」を取り上げ、学習活動として授業に位置付けることで、児童の伝える力が身に付くと考えた。

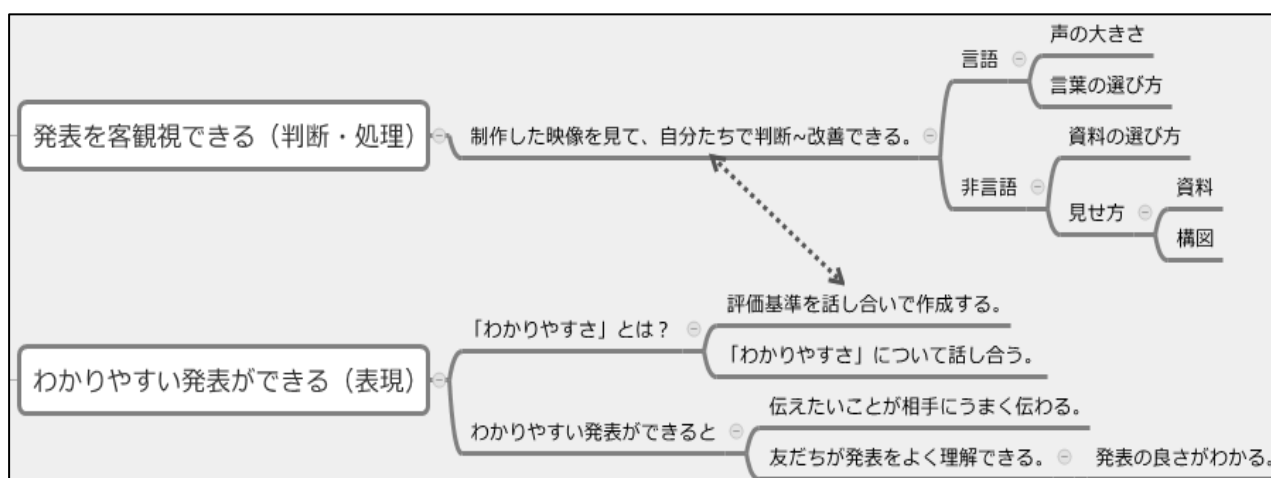


図2 映像制作活動と子どもたちに身に付けさせたい力について

#### (2) 使用機器について

機器については、児童が簡単に撮影できるよう、地域の見学等ですでに使用経験のあるデジタルカメラを使用することとした。デジタルカメラは写真の撮影だけでなく動画撮影機能をもっているものを使用した。

大きな画面で撮影した動画の見直しができるよう、大型テレビを活用しデジタルカメラから取り出したSDカードをテレビに差し込むことで、画像や映像をリモコン等の簡単な操作ですぐに見ることができるよう設定した。



#### (3) 本時の流れ

##### ・本時の目標

伝える相手を意識して、公園1の場面を分かりやすく表現することができる。

##### ・展開

学習活動と内容	教師のかかわり (○) と評価 (☆)
1. 前回までの学習活動を振り返る。	○ 前時に作成した「振り返りシート」を思い

<sup>4</sup> Microsoft 社 (簡易な動画編集ができる無料ソフトウェア)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識した表現方法を確認する。</li> <li>・構成を確認する。</li> </ul>	<p>出させる。</p>
<p>あい手にわかりやすく伝えるれん習しよう。～ 公園 1 の場面 ～</p>	
<p>2. グループごとにカメラを使って撮影の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識して、表現方法を工夫する。</li> <li>・もっと、ゆっくりとはっきり話そう。</li> <li>・言葉を短くしよう。</li> <li>・分かりやすい表現を使おう。</li> <li>・カメラに近づいて話そう。</li> </ul> <p>3. グループごとに撮影した映像について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面を絞って練習させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園について調べたことを1つ選び練習する。</li> </ul> </li> <li>○ 2班共同でカメラを活用するため、使う順番をあらかじめ決めるよう声をかける。</li> <li>○ 自分たちで作成した「振り返りシート」を元に発表を見直し、改善していくよう声をかける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場ですぐに撮影と振り返りができるようカメラと三脚を数か所に設置する。</li> </ul> </li> </ul>
<p>4. グループの撮影の様子を全体で見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前に出て、撮影する様子を共有する。</li> <li>・○班の発表の仕方を取り入れてみたいね。</li> <li>・もっとこうするとわかりやすく伝わるよ。</li> <li>・カメラを撮る役の人は、もっとこうするといいよ。</li> </ul> <p>5. 各グループで本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとこうするとわかりやすく伝わるな。</li> <li>・他の班の方法を自分たちの発表に当てはめるとどうなるだろう？</li> <li>・ここは、グラフを使った方が伝わりやすいね。</li> <li>・クイズ形式も面白そうだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちの撮影の様子について「振り返りシート」の観点（内容）を元に、友だちの撮影を見るよう話をする。</li> <li>○ 児童の感想や意見に合わせて、撮った映像をその場で見られるよう操作をする。</li> <li>○ 自分たちの発表の改善ポイントが明らかになるように、友だちの発表を振り返ったり、もらった振り返りシートを元に考えたりするよう指示する。</li> <li>☆ 伝える相手を意識して発表しているか。</li> <li>☆ 伝える相手を意識して自分たちの発表を振り返ることができているか。</li> </ul>

#### (4) 授業の考察

##### ① デジタルカメラでの動画の撮影と大型テレビでの確認について

グループ4、5人で役割分担をして撮影練習を行った。カメラ・三脚等の撮影機器の操作にはすぐに慣れた。撮影した映像を大型テレビで確認する場面では、じっくりと見直しを行い、うまくいかなかったところについては2回目の撮影時に改善するよう声をかけ合っているグループも見られた。

見直した後の編集は時間の関係で難しかったが、初めから順番やカットを決めて撮影をすることができたため、編集が必要だと思える映像はほとんどなかった。

##### ② 「教師が指導すべき内容」と「児童の中から出る気づき」の整理について

カメラ操作や話し方、資料の提示のコツなど、スキルについては練習を繰り返すことで学ばせることではなく、小学校3年生という発達段階に応じて教師がもっと指導すべきことであった。

##### ③ 振り返りの視点について

子どもたちに振り返りシートを使って撮影した映像の振り返りをさせた。他のグループの映像に対しては「伝えたいことをクイズにして紙に書いたのがよかった」等内容について工夫している点を見

つけている児童もいた。自分たちのグループの映像の確認については、教師が期待していた「内容についての振り返り」よりも「撮影のスキルについての振り返り」が多かった。伝える目的や相手を意識した表現・発信手段としての映像制作活動としていくためには、活動の視点を教師がしっかりと児童に意識させられるよう準備する必要があると再認識した。

#### ④表現の工夫について

「この公園は涼しいよ。」ということ伝えるために、温度計を映してみたり、日影の範囲が広くなることを実際の映像で木の影を映したりするなど、伝えたいことの根拠を工夫して分かりやすく伝えられたグループがあった。口で伝えるよりも映像で伝えた方がよく伝わると思わせる撮影場面であった。

#### ⑤映像制作活動を取り入れたよさ

全体的に子どもたちが楽しく意欲的に活動することができていた。カメラを向けられると生き生きとする児童もいる。テレビ番組等の影響か撮影することに抵抗がほとんどなく、被写体となる児童も恥ずかしがってうまく話せないといったことはなかった。

また、グループで一人一人が自分の役割に責任をもって取り組むことから、「一人ではできないことができた」と、協力して一つのことを成し遂げるよさを実感していた児童もいた。

### Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

#### 1 研究から見えてきたこと

今回の検証授業やその他これまでの取り組みを振り返り、表現・発信手段としての映像制作のよさとして、

- ・静止画より情報量が多いので短い時間で内容がよく伝わる。
- ・インタビューやナレーションなど、音、声、表情で伝わる効果が大きい。
- ・現場の映像を見せることでイメージが伝わりやすく、児童生徒の言葉のみによる表現力の差を補うことができる。
- ・自分が写っている映像を見直し、客観視することができ、振り返りや修正をするための大きな根拠となる。

等を挙げることができる。

映像制作という活動そのものは、グループ単位で自分の役割に責任をもって取り組むことができ、児童生徒にとってとても楽しい活動である。さらに伝えたいことと映像の長所がうまくリンクし、他の表現手段と比べて相手に伝えやすかったと実感できたとき、「楽しい」と感じるだけでなく、児童生徒に達成感が生まれるのではないか。そしてそこで初めて、映像を活用した伝える力が身に付くことになるか考える。逆に「だれに」「何を」伝えたいのかが明確になっていないと、ただ「楽しかった」で終わってしまうか、もしくは映像を制作することの負担感だけが残ってしまうことになる。

撮影機器に関しては、身近なデジタルカメラで手軽に動画の撮影ができる点は、この活動を取り入れるうえで大きなメリットとなることが検証授業を通じて分かった。今回、同学年4学級で同じ授業展開で映像制作活動に取り組んだが、各担任がそれぞれ持ち運びの手軽さや記録媒体であるSDカードを通じてテレビで確認ができる点等、デジタルカメラの使いやすさを実感していた（SDカードでの動画確認は、テレビと同メーカーのデジタルカメラで行った）。また、パソコンを使用せずにできる作業であることも使いやすさにつながっているとの感想もあった。編集作業についてはパソコンのソフトウェアをつかって行うことになるが、時間をかけずに簡単にできるようになると、テロップを挿

入したりアフレコをしたりすることで、説明がより伝わりやすくなるなど「伝える」ための工夫がさらにしやすくなると思う。

## 2 今後の課題

発表や説明の際に根拠を示すために映像を活用することは有効である。まず映像で伝えるよさを教師も児童生徒も認識することが大事であると感じた。映像で発表した方がよいという思いが高まってきた時に、そのスキルが身に付いていないのでは表現力を高めていくことはできない。児童生徒の発達段階に応じて、表現ツールの一つとして映像で発表することをスキルとして身に付けておく必要性を感じた。関連して大きな課題として挙げられるのが、学年や発達段階に応じてどこまでスキルを身に付ければよいのかという点である。小学校6年間、中学校3年間で、どの教科等の時間でどんなスキルを身につければよいのかという指標が、各学校でカリキュラムに位置付いていないのが現状である。

また、教師がそのスキルを指導するためには、「撮影のための手引」が必要となってくる。今回は、一つの試みとして「つくってつたえる」というWeb教材（参考文献参照）を参考にしたが、この教材のように、児童生徒が「これなら自分も映像制作に取り組みそう」と思えるような具体的な技術面のサポートがあれば、学習活動としてより手軽に映像制作ができ、機器の使いやすさに加えて教師の指導もしやすくなるを考える。「映像で伝えるよさはわかったけれど、いざ取り組みようとすると敷居が高い。」という教師の指導面でのサポートができる教材の開発が今後の課題である。

最後に、研究を進めるに当たり、ご指導ご助言をいただいた先生方、また、研究員所属の校長先生をはじめ教職員の皆様に心より感謝し厚くお礼申し上げます。

### 【参考文献/Webページ】

文部科学省「教育の情報化に関する手引」

2010年10月

稲垣 忠「『つくって伝える』学びの質的向上を目指したループリック連動型 Web 教材の開発」

<http://www.ina-lab.net/special/tsukutsuta/>

### 【指導助言者】

横浜国立大学教育人間科学部教授（川崎市総合教育センター専門員）

野中 陽一